

# 将軍は一つ前の戦争を戦う

そこに待っているのは「敗北」

2019.01.24

No.48

校長 渡邊 幸二

先日、朝日新聞の天声人語の欄に、上記のような格言が載っておりました。学校経営を預かるものとして、ちょっと考えさせられる内容でした。

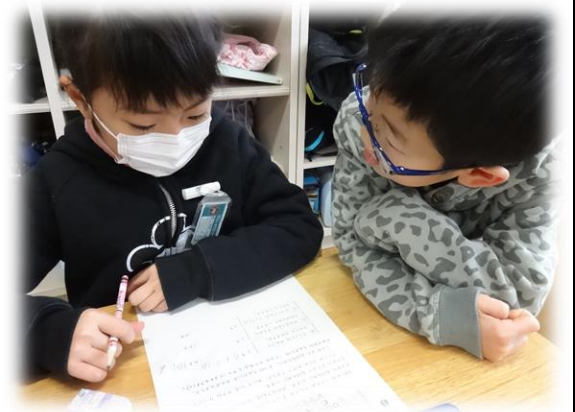
**指揮をとる者は、どうしても前回の戦争での経験をもとに戦略を立ててしまいがちだ。時代と共に技術や有効な戦い方などが変わっているのに、ついていけない。待っているのは敗北である。**



これまでの経験をもとに仕事を進めていけば、一見うまく行っているように見えるかもしれないが、おそらくは良くて現状維持だし、残念ながら程なく状況は悪化、そして**教育の劣化**につながると思います。

これも先日の報道で、東証上場の山形の洋菓子会社「シベール」が民事再生法の適用を申請したと知りました。とても残念なことです。報道によれば、これまでの経営を変えられず、新しい商品の投入ができずにいたことがその原因と経営者が話していたように記憶しています。これもまさに「**将軍は……**」ではないでしょうか。

私も、管理職となってから、その座に胡坐をかかずに、常に学ぶ姿勢を大切にしてきたつもりですし、できる限り先を見越して新しい方向での学校づくりを模索してきたと思っています。ですから、うまく行かないことも多々ありましたし失敗もしましたが、何とか劣化せずに進めているのではないかと、自分では思っています(その思いが、すでに劣化か!?)



## 「担任」という指導者は？

担任も指導者ですので、「将軍は……」に陥る危険があります。これまでの指導法から抜け出せずに、あるいはそこに固執してしまう、新しい刺激を求めないために、教育の劣化が起こる可能性があります。

この道何十年のベテラン教師ですら、自分の過去の経験から抜け出せずにいたためか、学習指導や学級経営がうまく行かなくなることがあります。そこで、これまでの自分の指導をふり返って**変えていこう**という方は、きっとまた再生していき、もっとすばらしいベテラン教師として活躍されているのだと思います。**自分自身の中にある前例踏襲をやめ、新しいことにチャレンジしていく**ことは、教師の成長にはなくてはならない大切なことなのでしょう。経験値の小さな若い教師であればなおさらです。他の先生方に教えを請い自分の稚拙な指導を直してもらったり、実践書を紐解き新たな指導法を試みたりしなければ、あっと言う間に窮地に陥ることは明白です。

幸い浜田小学校には、刺激をくれそうな先生方がたくさんいます。ベテランも若手も、お互いに刺激し合うことでお互いが伸びていける環境にあると思います。これからの学校研究、授業改善に期待します。